

安全報告書

2023年

伊予鉄バス株式会社

目 次

1. 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
「運転安全規範」綱領	
2. 当社の安全管理体制・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
(1) 組織図	
(2) 各管理者の役割	
3. 2023年度安全目標・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2
(1) PDCA サイクルによる安全マネジメント体制の構築	
(2) 2023年月間安全目標	
4. 2022年度の事故等の発生状況・・・・・・・・	P 3
(1) 重大事故発生件数	
(2) インシデント（事故の兆候）	
(3) 行政指導等	
5. 輸送の安全確保のための取組み・・・・・・・・	P 4
(1) 安全に関する投資	
(2) 教育訓練	
(3) EV バスに関する投資	
(4) 事故再発防止対策	
(5) テロ・バスジャック対策	
(6) 感染予防対策	
(7) その他	
6. 輸送の安全に関する内部監査について・・・・・・・・	P 1 9
(1) 監査目的	
(2) 実施者	
(3) 実施内容	
(4) 監査結果	
7. 安全管理規程・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2 0
8. 安全報告書へのご意見に対する連絡先・・・・・・・・	P 2 0

1. 基本方針

バス事業においてはバス運転安全規範を定め、以下の綱領を安全意識における軸として「安全輸送の確保・絶対無事故」に取り組みます。

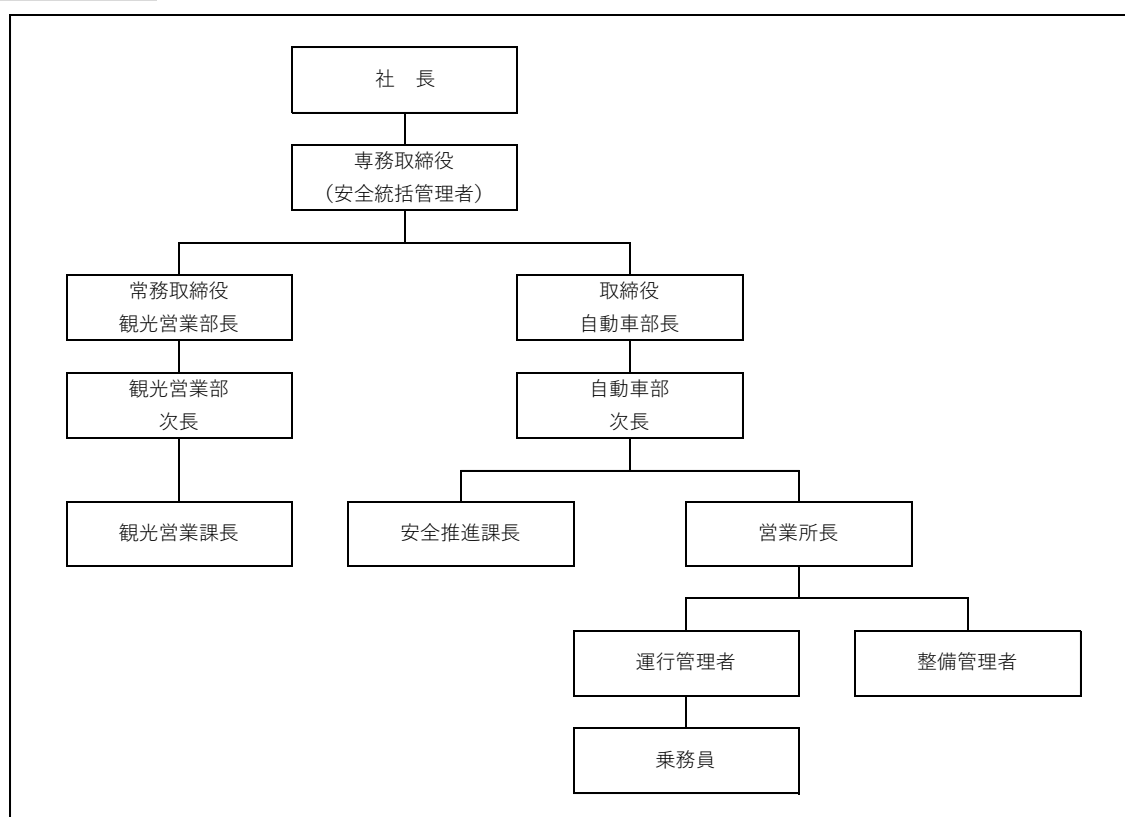
【運転安全規範】綱領

1. 安全は輸送業務の最大の使命である。
2. 安全の確保は規程の厳守から始まり不断の修練によって築きあげられる。
3. 確認の励行と連絡の徹底は安全の確保に最も大切である。
4. 安全確保のためには職責をこえて一致協力しなければならない。
5. 疑わしいときは手落ちなく考えて最も安全と認められるみちを採らなければならない。

2. 当社の安全管理体制

平成18年10月に「安全管理規程」を制定し、社長をトップとした安全管理組織を構築し運用しております。

(1) 組織図



※安全統括管理者：専務取締役 竹中由紀夫

(2) 各管理者の役割

代表取締役社長	輸送の安全確保に関する最終的な責任を負う。
専務取締役 (安全統括管理者)	輸送の安全確保に関する業務を統括する。
常務取締役 観光営業部長・次長	安全統括管理者を補佐し、貸切バスに関する事項を統括する。
取締役 自動車部長・次長	安全統括管理者を補佐し、自動車部に関する事項を統括する。
各課長	安全統括管理者の指揮の下、安全に関する事項を統括する。
各営業所長	担当バス路線に関する事項を統括する。
グループ経営本部長 (㈱伊予鉄グループ)	輸送の安全確保に必要な設備投資、財務、要員に関する事項を統括する。

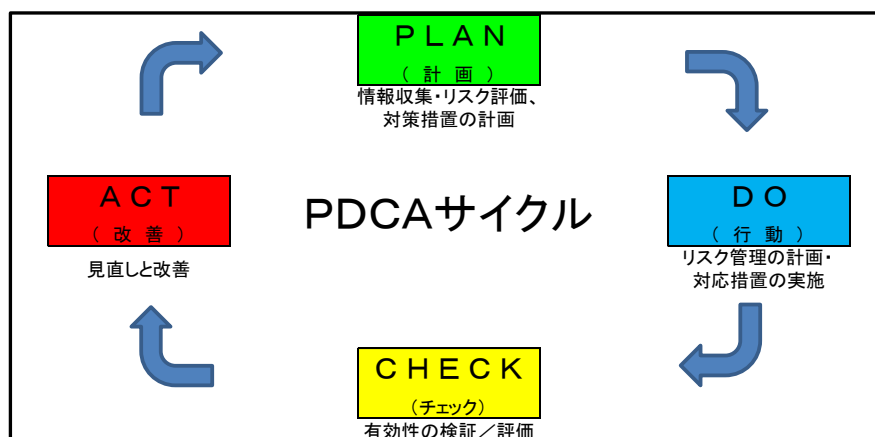
3. 2023年度安全目標

(1) PDCAサイクルによる安全マネジメント体制の構築

経営トップから現場の従業員に至るまで全員が一丸となって「安全、安心、信頼されるバス」を目指し、「計画・行動・チェック・改善」を継続して行い、安全性の向上を図る安全マネジメント体制を構築しています。また、事故惹起者に対しては、管理部門と現場が合同で再発防止のための検証会を実施しておりますし、共有が必要な事故やヒヤリハットについては全乗務員がそのドライブレコーダーの映像を閲覧しています。

【本年度の安全目標】

- ① 「重大事故 0」、
- ② 「事故件数 5 件以下 (有責・無責)」 (前年比 30%削減)、
- ③ 点呼の「確実実施」 および 「飲酒検知 0」



(2) 2023年月間安全目標

2023年 自動車部 月間安全目標	
月	安全目標
1月	終点到着時の「車内安全確認」実施100%
2月	交差点通過時の3S(See、Slow、Stop)の実施90%以上
3月	「ドアが開いてから席をお立ち下さい」の案内実施90%以上
4月	接客接遇に関する苦情「ゼロ」
5月	エコドライブの徹底(総合評価「A」80%以上)
6月	降車時の「注意喚起」実施90%以上
7月	バス停発車時の「3秒間車内安全確認」実施90%以上
8月	
9月	歩行者・自転車とのヒヤリハット「ゼロ」
10月	ドア開閉に起因する事故「ゼロ」
11月	日没30分前の「ヘッドライト点灯」完全実施
12月	終点到着時の「車内安全確認」実施100%

4. 2022年度の事故等の発生状況

2022年度における四国運輸局への届出等は下記の通りです。

(1) 重大事故発生件数

目標件数	発生件数	死傷者(死亡者)
0件	0件	0名(0)

※件数には車両故障含む。

※重大事故とは？

自動車事故報告規則第二条に定められている事故。

(2) インシデント(事故の兆候)

四国運輸局へのインシデント報告はありませんでした。

(3) 行政指導等

行政指導等の処分はありませんでした

5. 輸送の安全確保のための取組み

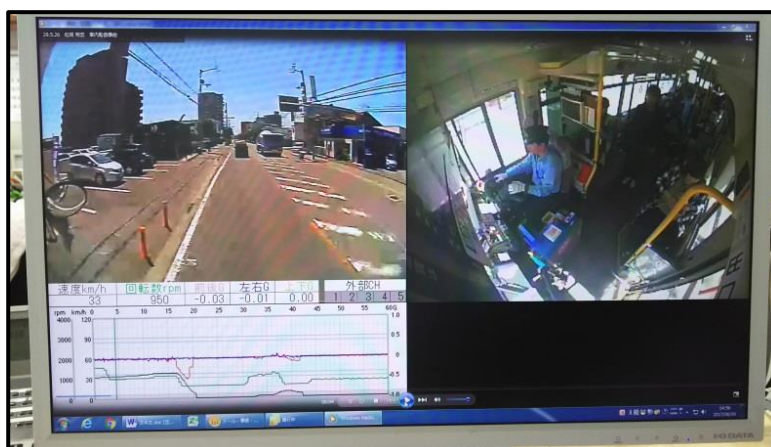
(1) 安全に関する投資

① バス車両

ヒヤリハットや事故情報の集約および、担当者以外への情報共有に有効であるドライブレコーダーを全車両に導入し、貸切バス車両には赤外線カメラを増設いたしました。また、カメラで取得した映像は、全運転士に対する安全指導に活用しております。

高速バス・貸切バス車両の新車については、衝突被害軽減ブレーキシステムや車線逸脱警報装置等を装備した先進安全自動車（ASV）を継続的に導入し、また旧型車両については、後付安全装置としては初めて世界基準をクリアした「モービルアイ」（衝突と車線逸脱を未然防止する警報装置）と、「居眠り検知装置」の装着を進め、ハード面での安全の拡充を図っております。

【ドライブレコーダーの映像】 ※デジタルタコグラフ機能付き



【先進安全自動車であることの車体への表示】



【ドライバー異常時対応システム（EDSS）】

ドライバーに急病等異常が発生した場合に、ドライバー自身又は乗客がスイッチを押すことで、車両が制動をかけるシステム。

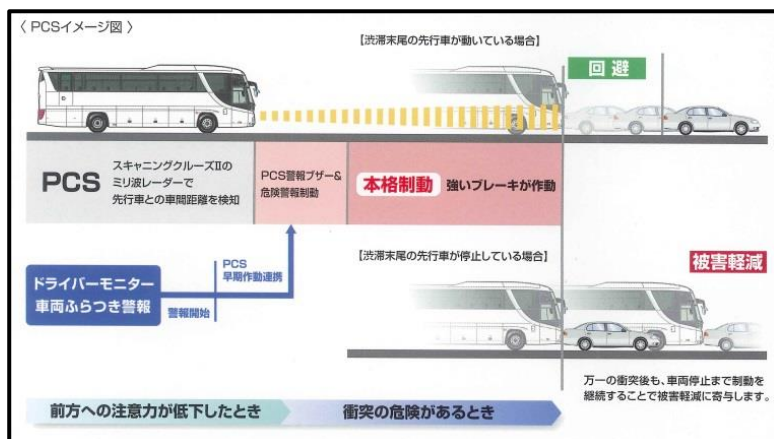
■高速バス・貸切バス



■一般路線バス



【衝突被害軽減ブレーキシステム】



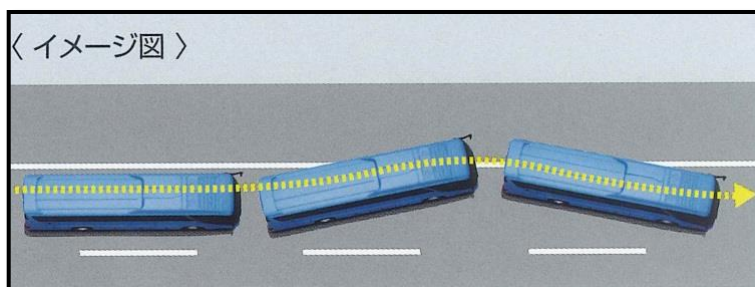
【車線逸脱警報装置】 車線からの逸脱を検知し警告



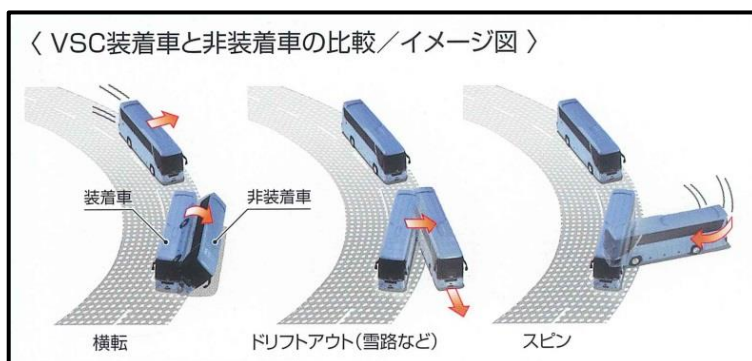
【ドライバーモニター】 顔や眼の状態から注意力低下を検出し警告



【車両ふらつき警報】 車両のふらつきを検出し警告



【車両安定制御システム】 滑りやすい路面やカーブでの危険回避補助



【モービルアイと居眠り検知装置】



②バス車両以外

飲酒運転の絶対撲滅のため、全営業所においては精度の高いアルコール検知器を使用した確実な対面点呼を実施し、対面点呼が実施できない高速・貸切バス運行時の遠隔地においては、携行型アルコール検知器による検査画像をスマートフォンで送信することにより厳正な検査の徹底を図っております。更には、宿泊先への飲酒の抜き打ち検査を実施することで、遠隔地での飲酒自体の未然防止にも努めております。

また、インターネットで運転適性診断が可能なナスバネットを営業所内に設置することにより、定期的に全運転士が受診し、自身の運転に対しての見直しを行い、より一層の安全運転意識の向上を図っております。更に、勤務中における運転士のスマートフォン操作を防止するため、緊急連絡用の携帯電話等を配備し、私物に関しては車内持ち込み禁止としております。

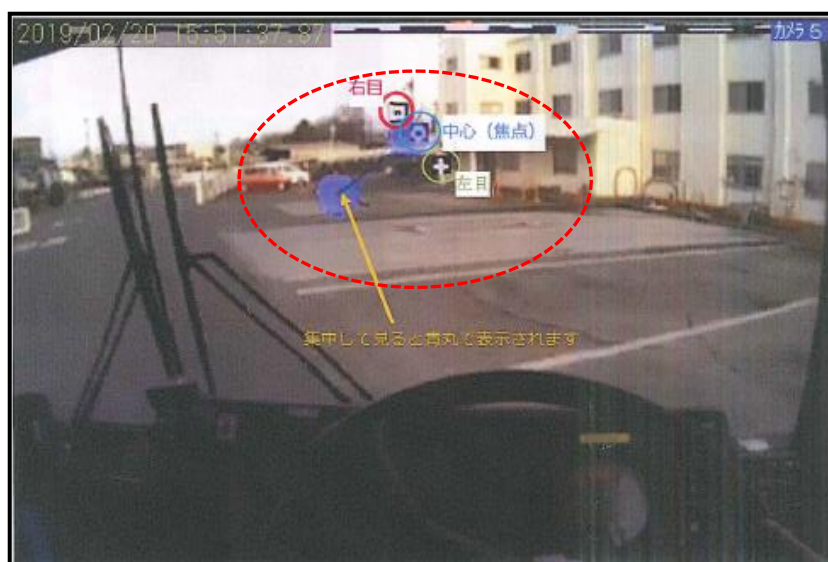
教育訓練用の機器として、同業他社への視察を参考に「アイマーク・レコーダー」を導入し、乗務員の安全確認指導を強化いたしました。

この「アイマーク・レコーダー」は、運転中に視線がどこを見ているかを記録することが可能な装置で、乗務員に装着し実際に運転する路線を走行させることで、運転者の特性や癖を知ることで安全意識の向上に繋がっています。また、右左折時に車両の内側の安全確認や、反対方向の後方のオーバーハングの振り出し確認を確実にしているかを記録された画像を見ながら、本人への指導が可能となり、事故削減へとつなげてまいります。

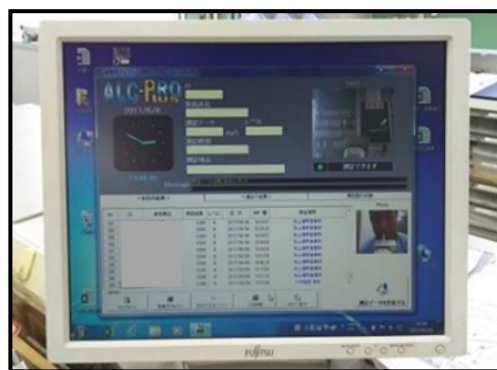
【アイマーク・レコーダー】



【実際記録されたの運行画面】



【営業所設置のアルコール検知器】



【携行型アルコール検知器および画像送信用スマートフォン】



【ナスバネット】※一般適性診断



(2) 教育訓練

運転士に対して入社時の新人研修から始まり、その後3ヵ月・6ヶ月・1年講習、高速バス講習、貸切バスによる順拝講習と段階的な講習を計画しております。また、毎年定例の訓練として、運転士全員に対して年2回の事故防止・接遇訓練を実施しており、2021年度の上期と下期に「コンプライアンス研修、事故防止訓練および、実設訓練」を実施しました。

特に車両とのヒヤリハットにおける危険予知訓練と、コンプライアンス教育を中心に実施しました。

更に、運行管理者に関しては法令で2年に1度の一般講習の受講義務がありますが、弊社では全員が毎年受講しており、常に安全意識の高揚を図っております。

また、年末年始の輸送等に関する安全総点検、春と秋の全国交通安全運動、当社独自で定めております運転事故撲滅週間（9月21日～9月30日）においては、点呼時における安全宣言の実施等、事故防止の取組みをより一層強化しております。

輸送の安全に関する投資の実績額

(単位：千円)

項目	実績額	実施詳細
教育・研修費	701	コンプライアンスセミナー 事故防止研修(年2回) など
健康対策	3,643	定期健康診断受診、ストレスチェック 脳ドック受診料、SAS検診 など
車両更新他投資	113,557	車両更新 ドライブレコーダー購入 など
合計	117,901	

(3) EVバスに関する投資

脱炭素に向けた取り組みと原油高による燃料費の高騰に対応するために、環境面や静音性のプラス効果が高い、EVバスを2023年1月に導入しました。

また、夜間や雨天時などの視界の悪い状況でも、「アラウンドビューモニター」やウインカーを出すと電子ミラーで死角を鮮明に確認することができます。

【EVバス】



【アラウンドビューモニター】



【電子ミラー】



【新人運転士研修】



【タイヤチェーン着脱講習】



【消防訓練】



接遇訓練・事故防止訓練（上期）

※オミクロン株感染拡大による特別警戒期間のため、集合教育を中止してPCにて個人教育を実施

■実施日： 2022年 8月 1日 ～ 9月 30日

■場 所： 各営業所 会社専用PC

■参加者： 全運転士（運行管理者含） 230名

■内 容： 【座学①】

「コンプライアンステスト」・・・webにて回答

・会社PCおよび、個人スマホ携帯での回答を行う

【座学②】

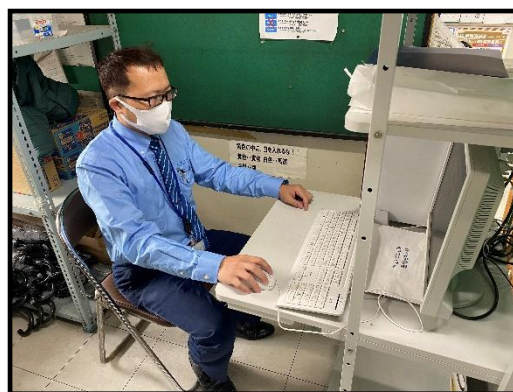
「危険予知トレーニング」

・会社PCにて、問題映像を閲覧し、テキスト用紙にて回答を提出する

・回答映像は、運行管理者および指導員の立会い基に閲覧する

・テキストに署名し回収する

【コンプライアンステスト】



【危険予知トレーニング】



事故防止訓練（下期）

■実施日： 2023年 1月 16日 ～ 2月 26日

■場 所： 松山斎院営業所 2階研修室および屋外

■参加者： 全運転士（運行管理者含） 230名

■内 容： 【座学】

- ・行政と街づくりとの連携について
- ・今年度の事故状況について
- ・始業点検の良い点について（映像）
- ・大型車の脱輪事故について（映像）
- ・自社の映像を活用した、KYT トレーニング
- ・事故発生時の対応（映像）
- ・事故対応マニュアルの再確認について

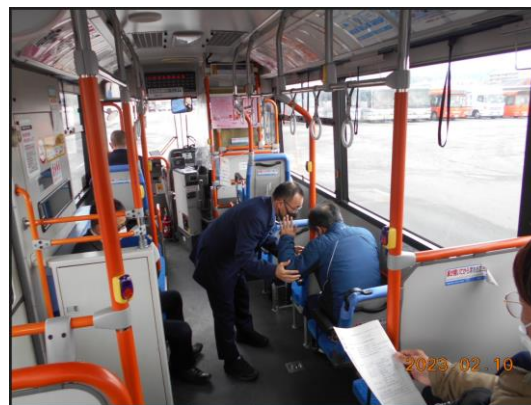
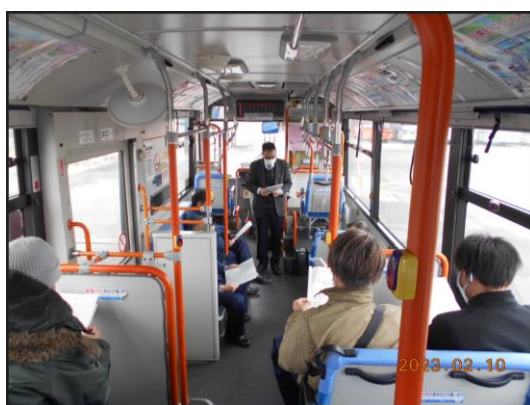
【実設訓練】

- ・事故発生時の対応訓練（想定①～④）
- ・非常用信号用具・非常口・消火器の取り扱い ・緊急時の非常口への誘導

【座学研修】



【実設訓練】



南海トラフ地震等非常事態発生を想定した情報伝達訓練

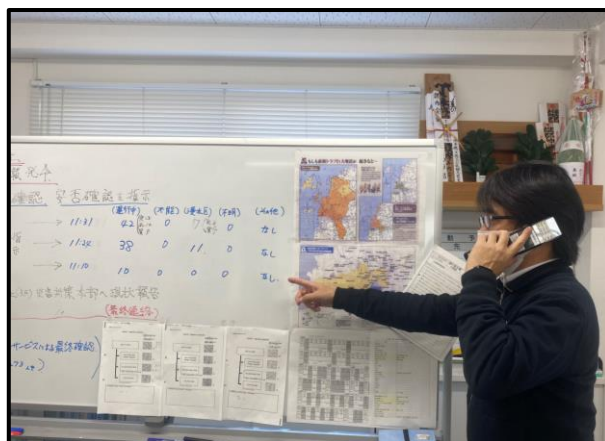
① 伊予鉄バス・情報伝達訓練

■日時 2022年12月19日(月) 11:00～

■目的 県民総ぐるみ地震防災訓練「シェイクアウトえひめ」に合わせて、情報伝達訓練を実施しました。

■概要 11:00(想定)の地震発生に合わせて、全従業員の安否確認を実施し、走行中の各営業所の全車両のバスの位置や運行経路が解るバスナビゲーションシステムを活用し、運行中の車両から運行管理者へ被害状況等の報告を受け、運行管理者から関係各所に伝達指示を実施。(対象:全従業員270名)
また、救急用品および非常物資の再確認も実施しました。

【管理本部】



【救急用品および非常物資】



② 自動車部・地震津波による想定訓練

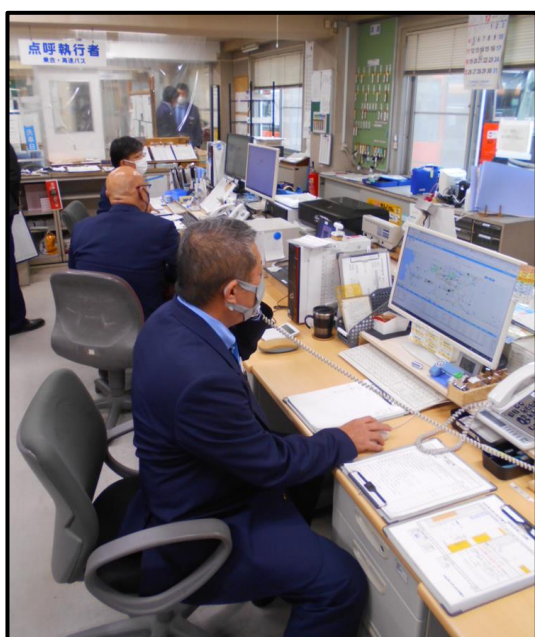
■日時 2022年12月19日(月) 14:00～

■目的 近い将来に発生が予想されている、南海トラフ地震などの非常事態発生時を想定し、緊急時の連携体制を確認いたしました。

■概要 一般乗合車両および貸切バス車両全車に導入したIP無線と、バスの位置や運行経路が解るバスナビゲーションシステムを活用した、情報伝達訓練を実施しました。

運行中に地震が発生した想定で、車両から運行管理者へ被害状況等の報告を受け、運行管理者から関係各所に伝達指示を実施。

【運行管理者】



【乗務員】



交通バリアフリー疑似体験研修会

- 実施日： 2023年 3月 16日
- 場 所： 松山斎院営業所 2階研修室および屋外
- 参加者： 運転士（運行管理者含） 10名
- 目 的 交通バリアフリー対策事業およびバス輸送改善対策事業の一環として、NPO 法人「わおん」の協力を得て、高齢者疑似体験を通して輸送サービスの向上と安全性の確保に努めることを目的とする。
- 内 容：
 - ・老化のメカニズムおよび注意事項の説明
 - ・疑似体験セットを装着し、バスの乗降体験
 - ・認知サポーター研修
 - ・体験後の参加者によるディスカッション

【座学】



【電動車椅子乗降体験】



【疑似体験によるバス乗降】



2022年度 教育訓練実績

実施時期		内容	備考	
2022年	4月	高速路線講習	高知線・高松線・京都線	
	5月	一般路線講習	入社3ヶ月講習	
		一般路線講習	新居浜線講習・空港リムジン	
		高速路線講習	高知線・高松線・福山線	
	6月	運行管理者基礎講習	自動車事故対策機構	
		高速路線講習	岡山線	
	7月	一般路線講習	入社3ヶ月講習	
		高速路線講習	京都線・大阪線・徳島線・高知線	
		安全講習	運輸安全マネジメント(ガイドラインセミナー・リスク管理セミナー)	
		防災研修	原子力防災研修	
	8月	一般路線講習	入社3ヶ月講習	
		一般路線講習	空港リムジン	
		高速路線講習	高松線	
		運行管理者試験		
	9月	高速路線講習	徳島線・高知線・福山線・福岡線	
		接遇・事故防止訓練	コンプライアンス研修・事故防止講習・危険予知トレーニング・実設訓練	
		安全講習	衛生管理者講習	
	10月	一般路線講習	入社6ヶ月講習	
		高速路線講習	徳島線・高知線・大阪線・福岡線	
	11月	一般路線講習	入社3ヶ月講習	
		一般路線講習	空港リムジン	
		高速路線講習	徳島線・福岡線	
	12月	一般路線講習	入社6ヶ月講習	
		高速路線講習	高知線・神戸線	
		安全講習	運輸安全マネジメント(リスク管理セミナー)	
		安全講習	運輸安全マネジメント(ガイドラインセミナー)	
	2023年	1月	一般路線講習	入社3ヶ月講習
			高速路線講習	大阪線・福山線・徳島線
			チェーン着脱講習	冬用タイヤチェーン着脱講習
			運行管理者基礎講習	自動車事故対策機構
		2月	高速路線講習	岡山線
			防災研修	運輸安全マネジメント(運輸防災マネジメントセミナー)
			事故防止訓練	事故防止講習・危険予知トレーニング・実設訓練
		3月	一般路線講習	入社6ヶ月講習
			高速路線講習	徳島線・神戸線・東京線
			安全講習	運輸安全マネジメント(内部監査セミナー)
安全講習			現業監督者研修	

※上記以外に、新人運転士の入社に合わせて研修を実施。

(4) 事故再発防止策

事故惹起者に対しては、添乗指導やドライブレコーダーの映像を使用した事故防止検証会を実施し、再発防止に努めるとともに、その報告書や映像により全運転士で情報の共有を図っています。

また、月一回の定例所長会においては各営業所からのドライブレコーダーによるヒヤリハット情報を収集・解析するなど、事故の未然防止にも取り組んでおります。

(5) テロ・バスジャック対策

①対応

緊急時対応訓練等の実施により、発生時の対応についても周知しておりますし、繁忙期等の輸送需要が集中する時には、営業所内の巡回を定期的実施するなど、より一層の強化を図っております。

②ポスター、チラシによる注意喚起

主要バス停、営業所等にポスターを掲示し、不審物・不審者の発見、通報についてお客様のご協力をお願いしております。

(6) 感染予防対策

①乗務員は、出勤時に検温（体温測定）および、健康状態の確認を実施。

②従業員のマスク着用、手洗い・うがいの徹底。

- ・バス運転士は、1運行ごとの帰着時に手洗い・うがいを励行。
- ・休憩時においても、マスク着用の励行。

③路線バスの運行毎に、車内の除菌を実施。

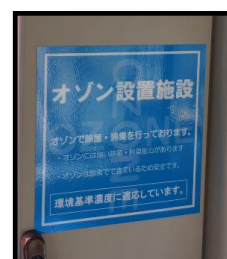
- ・走行中に窓開放により換気。
- ・雨天時でも空気の入れ替えができるように、車両窓にバイザーを設置。
- ・営業所等の停車時にドアを開放して換気。
- ・エアコン利用時には外気モードで運行。

⑤高速バスには、ウイルス等への効果が数年間持続することが期待されている「抗ウイルス・抗菌剤」加工を高速バス全 30 両に実施。また、路線バス全車にオゾンで除菌・消臭できる「オゾン脱臭器 AIR BUSTER エアバスター」を定期的(約 1 ヶ月に 1 回以上)に実施。

※2023年5月8日より、新型コロナウイルスの位置づけが、「2類」から「5類」に変更された。

【抗ウイルス・抗菌剤】

【オゾン脱臭器】



(7) その他

- ①「Jアラート等によるミサイル発射情報受信時の対応要領」を策定し、万が一の有事にも備えています。
- ②乗務員の健康管理について
年2回の健康診断の受診に加えて、SASスクリーニング検査及び脳ドック検診を5年に一度実施しております。

6. 輸送の安全に関する内部監査について

(1) 監査目的

定期的に安全管理体制を自己確認することにより、その課題および問題点を明らかにすることを目的として、毎年実施しております。

(2) 実施者

グループ関連会社 内部監査員

(3) 実施内容

運輸安全マネジメント制度において求められる、輸送の安全に関して展開されるべきPDCAサイクルの確認を主とした監査を実施し、各営業所の安全管理体制を検証いたしました。

- トップインタビュー 2022年10月4日
- 安全統括管理者インタビュー 2022年10月4日
- バス部門内部監査 2022年10月26日

(4) 監査結果

安全管理体制が構築されており、組織全体として安全意識の向上が図られているとの評価を受けました。

【トップインタビュー】



【安全統括管理者インタビュー】



【バス部門内部監査】



7. 安全管理規程

[安全管理規程 \(伊予鉄バス株\)](#)

8. 安全報告書へのご意見に対する連絡先

当社の安全への取り組みに対するご意見をお寄せください。

info@iyotetsu.co.jp